



自分で育てた魚たちが 生命と水の大切さを 教えてくれました

落合勇太さん (カジカ的人工ふ化)



HITO

「ヤマメやイワナの人工ふ化に比べると、カジカは難しかったです。」と背筋をピンと伸ばして話してくれるのは、落合勇太さん。上赤坂在住の高校3年生です。これまで、清流に棲むことから人工ふ化は難しいと言われているカジカを自宅で育て、稚魚を人間川上流に放流してきました。

人工ふ化に取り組もうと思いついたのは、釣りが好きなお父さんと一緒に、小さいころから川で釣りを楽しんだり、その魚を見ていくうちに自分で育ててみたいと思つようになったからです。初めての挑戦は、小学5年生のときのイワナの人工ふ化でしたが、残念ながら失敗でした。それを機会に生態系の図鑑を読んだり、分からないことは水産試験場で教えてもら

「カジカは水質の変化に敏感で、水が汚れるとすぐになくなってしまふ魚なんです。水のきれいさを表すパラメーターでもあるのです。魚を川に帰すだけでなく、まず、川をきれいになくしてはならないと思います。」

らい、6年生のときにイワナを、翌年にはヤマメのふ化にも成功し、それ以来中学3年生まで自分で育てた稚魚を放流してきました。

中学2年生のとき、自分で釣ってきたカジカが水槽の中で卵を産んだけれど、その卵を食べちゃったんです。それが残念で、「自分で育ててみよう」という気持ちになりました。これがカジカ的人工ふ化のきっかけです。ヤマメやイワナの経験はあったものの、カジカのふ化は思ったより難しく、水質や水温の変化にデリケートな魚であることも分かりました。そして自然に近い状態を再現するために、実際に川に行つて水質や水温を調べました。

「人間川水系のカジカは1月下旬から2月ごろが産卵期ですが、タイミングが難しいんです。受精させて20日位で卵の中に目が見えます。ふ化する時期が近づくと、ソワソワしてしまうし、ふ化した瞬間は「やったー」と、つい叫んでしまいます。」と感激が伝わります。しかし、大変なのはふ化してからです。初めはお腹に栄養の入った袋を付けているんです。その袋がなくなり魚の形になると餌をあげるんですが、水や餌に気をつかうので放流するまでは毎日気が抜けません。また、春先になると水槽の水温が上がってしまうので、何かいい方法はないかと考えていた



落合さんが大切に育ててきたカジカの稚魚。約2.5cmに成長した後放流されました。

自分で大切に育てた稚魚を川に放流するときは、元気に大きくなれよ。」という思いでいっぱい話す一方で、魚を育てることを通じて環境への関心が高まり、近くの川にもカジカが棲めるよう、私たちが川をきれいにしなくてはならない。」と、水辺の環境の大切さも学んだそうです。そのために大学では水質分析の分野に進んで、いろいろ学びたいと思います。進学したらしばらく人工ふ化もお休みですが、また、必ずカジカを育てたいです。」と清流のように澄んだ瞳で話してくれました。

REPORTER'S EYE

介護予防教室 (高齢者元気ハツラツ教室・出前講座)



【リポーター】
小林梨花さん
(中央在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民がレポートします。

皆さんの近くまでうかがいます 気の合う仲間と一緒に 健康について学びませんか



歩く前のストレッチ体操。自分の体調に合わせ、無理なく、続けることが健康の秘訣です。高齢者元気ハツラツ教室は、お近くの公民館で開催しています。

問い合わせ 高齢者福祉課へ内線1573

夕方になると、「夫婦や友達同士で仲良くウォーキングをされているかたの姿をよく見かけますね。皆さんは、5年後、10年後の自分の健康を考えたことがありますか。介護保険制度がスタートして2年が経ち、日常的に支援や介護が必要な状態になったときに必要なサービスが受けられる社会的な仕組みが整って来ましたが、しかし、本当に必要なのは、そういったサービスを保ち、介護が必要な状態にならないよう、予防に心がけることではないでしょうか。そこで、今年の5月から始まった「高齢者元気ハツラツ教室」について、高齢者福祉課で伺いました。

健センターや在宅介護支援センターを中心に実施してまいりました。しかし、保健・医療・福祉・地域が連携し、より効果的な事業として定着させ、皆さんに介護予防の重要性を知っていただくためには、皆さんの身近な場所に出向いて実施することが必要と考え、この教室を始めたのだそうです。

この教室はおおむね65歳以上の高齢者を対象に、市内11か所の公民館を会場として各館2回ずつ実施します。第1回は、レクリエーションを中心に楽しく体を動かし、第2回は、歩くことを中心に行われます。私も新狭山公民館で行われた第2回の教室に参加してみました。まず、簡単な問診や血圧測定から始まり、理学療法士の先生から歩くことの効果や注意事項などの講義を受けた後、歩く前のストレッチ体操、筋力強化、バランスのとれたなどの実技をまぜた指導がありました。ふだん何気なく歩いている私にとって、ストレッチをやってから歩き始めるとか、うまく歩く練習」といのは、無理なく歩くうえでとても参考になりました。

さらに、自治会館など希望する場所に講師が出向いて、高齢者に限らず、市民の皆さんがいつまでも健康で自立した生活が送れるよう、骨折・転倒の予防、痴呆や高齢者の行動の疑似体験など、さまざまな

まな健康や福祉に関するメニューを用意した「出前講座」も9月から実施しているそうです。5名以上集まれば受けられるということなので、サークルや自治会活動などにぜひ活用してみたいです。

私は、これらの事業に参加することで、家にとじこもりがちな高齢者の皆さんが外に出ていくきっかけを作れたらいいなと思えました。担当職員の話でも、多くの皆さんに介護予防の重要性を知っていただき、仲間を作って、一緒に楽しく日々の生活の中で継続していつてもらいたいとのことでした。

今回のレポートを通じて、健康などの情報や知識が必要と感じたときに身近な場所で気軽に得られることを知り安心しました。おいしいお茶を飲んで、おいしい空気を吸って、いつまでもみんなが元気である狭山市になれるといいですね。



すこやか体操は人気メニューの1つ。出前講座には、転倒・骨折予防を始めとして19のメニューが用意してあります。